

神話の國出雲バイオマス活用推進プランの中間評価について

1 神話の國出雲バイオマス活用推進プランの概要

出雲市内に豊富に存在するバイオマスの活用に向けた具体的プロジェクトを推進するため、平成 2 5 年 6 月に「神話の國出雲バイオマス活用推進プラン」（以下「プラン」という。）を策定しています。

(1) 計画期間

平成 2 5 年度（2 0 1 3 年度）～平成 3 4 年度（2 0 2 2 年度）【1 0 年間】

(2) 基本目標

- ①農林業の振興及びエネルギー関連産業の立地促進による地域経済の活性化
- ②バイオマス資源の活用促進による持続可能な産業構造の構築
- ③環境にやさしいまちづくりの実現に向けた地球温暖化防止

2 プランの中間評価

プラン策定時に調査した 1 1 項目のバイオマス利用率の進捗状況について、平成 2 9 年度データ（当該データが公表されていない場合は、平成 2 9 年度以前で公表されている最新データ）をもとに、それぞれに賦存量・利用量を調査し、あらためて利用率を算出しました。

【調査手順】

- (1) プラン策定時の項目ごとに、バイオマス資源の賦存量を調査・算出
- (2) 統計データや事業者ヒアリング等を行い、項目ごとのバイオマス資源の利用量を調査・算出
- (3) バイオマス資源の賦存量・利用量を炭素換算し、利用率を算出

■ バイオマス利用率の推移

(単位:トン/年)

		平成25年度プラン策定時(平成22年度データ)					平成30年度中間評価時(平成29年度データ)					増減
		賦存量		利用量		利用率	賦存量		利用量		利用率	
		湿潤量	炭素換算	湿潤量	炭素換算		湿潤量	炭素換算	湿潤量	炭素換算		
廃棄物系		110,128	8,275	109,756	8,205	99%	104,443	8,313	104,260	8,300	99%	
①	家畜排せつ物	75,488	4,504	75,488	4,504	100%	62,970	3,757	62,970	3,757	100%	
②	食品廃棄物(一般系)	17,449	771	17,449	771	100%	20,274	896	20,274	896	100%	
③	食品廃棄物(事業系)	1,829	81	1,809	80	99%	2,204	97	2,046	90	93%	△6%
④	廃食用油	584	417	584	417	100%	599	428	599	428	100%	
⑤	製材残材	7,550	1,682	7,268	1,619	96%	9,087	2,024	9,062	2,018	99%	+3%
⑥	剪定枝	1,031	230	1,031	230	100%	1,795	400	1,795	400	100%	
⑦	刈草	341	28	271	22	79%	743	61	743	61	100%	+21%
⑧	下水・し尿汚泥	5,856	562	5,856	562	100%	6,771	650	6,771	650	100%	
未利用系		41,654	11,276	31,428	8,997	80%	38,165	10,161	28,099	7,918	78%	
⑨	林地残材	10,220	2,276	0	0	0%	12,040	2,682	1,984	442	16%	+16%
⑩	稲わら	27,000	7,730	26,994	7,728	100%	20,500	5,869	20,490	5,866	100%	
⑪	もみがら	4,434	1,269	4,434	1,269	100%	5,625	1,610	5,625	1,610	100%	
合 計		151,782	19,551	141,184	17,202	88%	142,608	18,474	132,359	16,218	88%	

3 中間評価のまとめ

利用率が上昇した項目は、製材残材や刈草、林地残材で、特に、プラン策定時に利用が全くなかった林地残材の活用については、市民参加型による林地残材等搬出に向けた取組の創設や温浴施設への木質バイオマスボイラー導入などにより、利用率が向上しました。

一方、食品廃棄物（事業系）については、廃棄量そのものの増加と事業所から排出される食品廃棄物の埋立処分量の増加などにより利用率が低下する結果となりました。

食品廃棄物自体の発生抑制については、家庭から排出される一般系、事業所やスーパーなどから排出される事業系ともに増加傾向にあることから、市民・事業者に向けた食品ロス削減に向けた啓発等への取組が重要です。

現在、出雲エネルギーセンターで食品廃棄物を含む可燃ごみの焼却熱を利用した発電を行っています。次期可燃ごみ処理施設も、バイオマス発電効率をさらに高めながら、引き続き「エネルギー回収型廃棄物処理施設」として整備していきます。

計画期間の後半においても、他の先進的事例やバイオマス利活用にかかる技術開発、普及に関する情報収集等を積極的に行いながら、平成34年度（2022年度）の目標利用率の達成に向け、引き続き取り組んでいきます。

■ バイオマス利用率の目標値の見直し

（単位：トン/年）

	プラン策定時【平成25年度】					中間評価時【平成30年度】				
	賦存量(H25実績)		利用量(H34目標値)		H34目標 利用率	賦存量(H30実績)		利用量(H34目標値)		H34目標 利用率
	湿潤量	炭素換算	湿潤量	炭素換算		湿潤量	炭素換算	湿潤量	炭素換算	
廃棄物系	110,128	8,275	109,756	8,205	99%	104,443	8,313	104,330	8,292	99%
① 家畜排せつ物	75,488	4,504	75,488	4,504	100%	62,970	3,757	62,970	3,757	100%
② 食品廃棄物(一般系)	17,449	771	17,449	771	100%	20,274	896	20,274	896	100%
③ 食品廃棄物(事業系)	1,829	81	1,809	80	99%	2,204	97	2,182	96	99%
④ 廃食用油	584	417	584	417	100%	599	428	599	428	100%
⑤ 製材残材	7,550	1,682	7,268	1,619	96%	9,087	2,024	8,996	2,004	99%
⑥ 剪定枝	1,031	230	1,031	230	100%	1,795	400	1,795	400	100%
⑦ 刈草	341	28	271	22	79%	743	61	743	61	100%
⑧ 下水・し尿汚泥	5,856	562	5,856	562	100%	6,771	650	6,771	650	100%
未利用系	41,654	11,275	34,428	9,665	86%	38,165	10,161	29,617	8,257	81%
⑨ 林地残材	10,220	2,276	3,000	668	29%	12,040	2,682	3,492	778	29%
⑩ 稲わら	27,000	7,730	26,994	7,728	100%	20,500	5,869	20,500	5,869	100%
⑪ もみがら	4,434	1,269	4,434	1,269	100%	5,625	1,610	5,625	1,610	100%
合 計	151,782	19,550	144,184	17,870	91%	142,608	18,474	133,947	16,549	90%

【目標値の見直しについて】

中間評価の段階で目標を達成した製材残材、刈草については、平成34年度（2022年度）の最終目標利用率を現在の実績に応じた数値に上方修正し、その他の項目については、プラン策定時に設定した平成34年度（2022年度）の目標利用率を継承します。

なお、全体利用率（合計値）については、今回の中間評価で用いた賦存量・利用量に基づく炭素換算値の合計値により再計算しています。